



2024年 4月期
第2四半期決算説明資料

第2四半期決算概要、主要トピック

1

東北大学大学院医学系研究科と波動制御技術を用いた皮膚疾患の非薬物療法に関する共同研究を開始

2

「ガンマ波サウンド」が「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」のクリエイティブイノベーション部門ゴールドとICCサミット賞をダブル受賞

3

音響メタマテリアル技術を応用した透明吸音パネル「iwasemi™ RC- α 」が「CES® 2024 Innovation Awards」を受賞

4

日本とASEAN各国から参加者が集まった「日ASEANヤングビジネスリーダーズサミット」に「VUEVO字幕透明ディスプレイ」を提供

5

米国Neuroscience 2023において、「音刺激によってヒトの脳にガンマ波が同期されることを確認したこと」を学術発表

	2022/10	2023/10	2023/10	対前年比増分(%)
	千円	千円	千ドル	%
Revenue:				
Service	121,866	73,430	485	(39.70)
Products	36,773	225,709	1,490	513.80
Total revenue	158,639	299,139	1,975	88.60
Cost and expenses:				
Cost of services	23,121	16,710	111	(27.70)
Cost of products	24,053	126,820	837	427.30
Research and development	339,283	279,436	1,845	(17.60)
Selling, general and administrative expenses	643,892	1,051,796	6,944	63.30
Total cost and expenses	1,030,349	1,474,762	9,737	43.10
Loss from operations	(871,710)	(1,175,623)	(7,762)	34.90
Interest expense	(13,423)	(15,811)	(104)	17.80
Other income, net	133	41,407	273	31,033.10
Loss before income taxes	(885,000)	(1,150,027)	(7,593)	29.90
Income tax expense	—	—	—	—
Net loss	(885,000)	(1,150,027)	(7,593)	29.90

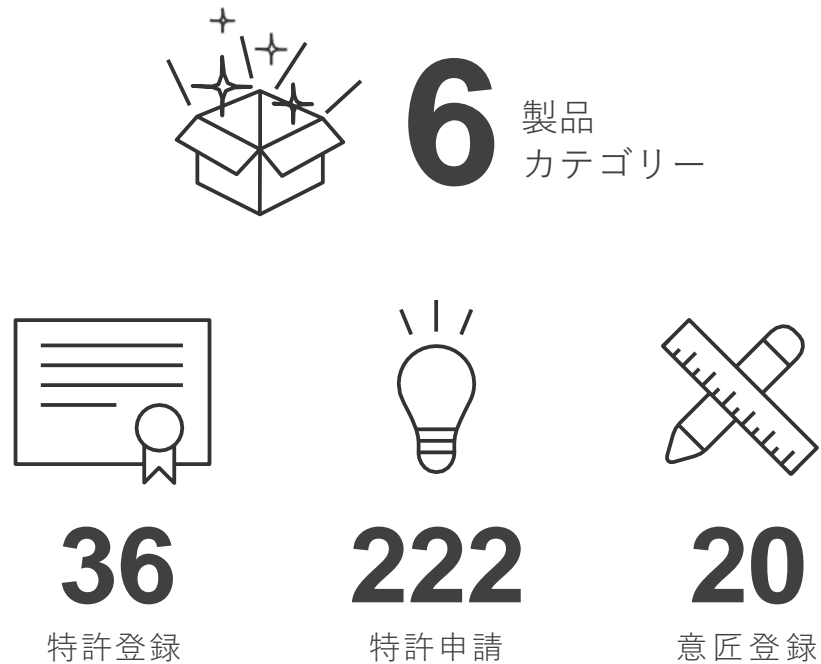
	2023/4	2023/10	2023/10
	千円	千円	千ドル
Assets			
Current assets:			
Cash and cash equivalents	2,135,513	2,420,667	15,982
Accounts receivable – trade	198,892	13,614	90
Inventories	123,119	180,022	1,189
Deferred offering costs	260,689	-	-
Prepaid expenses and other current assets	326,202	355,076	2,344
Total current assets	3,044,415	2,969,379	19,605
Property and equipment, net	507,778	490,358	3,238
Intangible assets, net	14,068	15,212	100
Operating lease right-of-use assets, net	46,046	466,432	3,080
Other assets	105,347	141,026	931
Total assets	3,717,654	4,082,407	26,954
Liabilities and stockholders' equity			
Current liabilities:			
Accounts payable	549,449	156,194	1,031
Accrued expenses and other current liabilities	203,842	194,890	1,287
Current portion of long-term borrowings	1,013,332	1,013,332	6,690
Total current liabilities	1,766,623	1,364,416	9,008
Long-term borrowings, net of current portion	21,113	14,447	95
Operating lease liabilities, net of current portion	5,956	459,071	3,031
Other liabilities	25,536	18,400	122
Total liabilities	1,819,228	1,856,334	12,256
Common stock, no par value	100,000	1,074,970	7,097
Additional paid-in capital	6,180,678	6,683,382	44,127
Accumulated deficit	(4,382,252)	(5,532,279)	(36,526)
Total stockholders' equity	1,898,426	2,226,073	14,698
Total liabilities and stockholders' equity	3,717,654	4,082,407	26,954

	2022/10 千円	2023/10 千円	2023/10 千ドル
Cash flows from operating activities:			
Net loss	(885,000)	(1,150,027)	(7,593)
Adjustments to reconcile net loss to net cash used in operating activities:			
Depreciation and amortization	38,896	101,331	669
Stock-based compensation	32,768	3,355	22
Foreign exchange losses (gains)	4,043	(35,940)	(237)
Asset retirement obligation accretion	332	490	3
Changes in operating assets and liabilities:			
Accounts receivable-trade	(39,831)	185,278	1,223
Inventories	(30,511)	(56,903)	(376)
Prepaid expenses and other current assets	(13,250)	(25,179)	(166)
Operating lease right-of-use assets, net	30,909	66,973	442
Other assets	(1,678)	(35,681)	(236)
Accounts payable	24,123	(382,095)	(2,523)
Accrued expenses and other current liabilities	9,501	(16,123)	(105)
Operating lease liabilities	(31,968)	(40,544)	(268)
Net cash used in operating activities	(861,666)	(1,385,065)	(9,145)
Cash flows from investing activities:			
Purchases of property and equipment	(47,351)	(64,797)	(428)
Purchases of intangible assets	(1,970)	(3,963)	(26)
Net cash used in investing activities	(49,321)	(68,760)	(454)
Cash flows from financing activities:			
Proceeds from borrowings	250,000	-	-
Repayments of borrowings	-	(6,666)	(44)
Repayments of finance lease liabilities	(6,972)	(8,022)	(53)
Payments of offering costs	(24,151)	(237,222)	(1,566)
Proceeds from issuance of convertible preferred stock	2,171,103	-	-
Proceeds from issuance of common stock upon initial public offering - net of underwriting discounts and commissions	-	1,949,940	12,874
Net cash provided by financing activities	2,389,980	1,698,030	11,211
Effect of exchange rate changes on cash and cash equivalents	-	40,949	270
Net increase in cash and cash equivalents	1,478,993	285,154	1,882
Cash and cash equivalents at beginning of period	1,795,963	2,135,513	14,100
Cash and cash equivalents at end of period	3,274,956	2,420,667	15,982
Non-cash investing and financing activities:			
Operating lease right-of-use assets obtained in exchange for lease liabilities	2,716	487,359	3,218
Property and equipment acquired under finance leases	3,996	-	-
Purchases of property and equipment included in accounts payable	8,332	21,089	139
Offering costs included in accounts payable and, accrued expenses and other current liabilities	23,417	23,025	152

研究開発内容	プロダクト	基礎研究 ・先行開発	事業開発	上市
ヘアケア	SonoRepro			●
ビューティケア（美髪、スキンケア）	未定	●		
皮膚疾患治療	未定	●		
創傷治癒	未定	●		
ガンマ波サウンドケアスピーカー	kikippa			●
ガンマ波サウンドケア（スピーカー以外）	未定		●	
音による認知症ケア	未定	●		
難聴者サポート及び議事録作成	VUEVO（ワイヤレスマイク）			●
難聴者サポート及び次世代コミュニケーション	VUEVO（スマートグラス）		●	
同時翻訳サポート	VUEVO（字幕透明ディスプレイ）		●	

研究開発内容	プロダクト	基礎研究 ・先行開発	事業開発	上市
オフィスにおける吸音	iwasemi (HX-α / SQ-α / RC-α)			●
オフィス以外での吸音	未定	●		
マンション等住居における遮音 (空気は通すが音は通さない遮音構造)	未定		●	
マンション等住居以外における遮音	未定	●		
配筋検査工程の工数削減	KOTOWARI v360		●	
配筋検査以外の工程の工数削減	未定	●		
人流分析結果に合わせた最適な空間づくり	KOTOWARI FAC+			●
屋内位置情報計測	hackke			●

私たちは、コアテクノロジーである波動制御技術と多様な製品ポートフォリオが、多くの競争相手から私たちの会社を差別化すると考えています。



競争優位性



參考資料

社名	ピクシーダストテクノロジーズ株式会社
上場市場	NASDAQ Capital Market (Ticker PXDT)
代表取締役	落合 陽一、村上 泰一郎
ミッション	「社会的意義」や「意味」があるものを連続的に生み出す孵卵器となる
事業概要	波動制御技術を利用した製品開発及び販売
設立	2017年5月
所在地	東京都中央区八重洲2-2-1 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー8階
従業員数	78名 (2023年5月末)
発行済株式数	14,864,867株(2024年1月末)
時価総額	119百万ドル (2024年1月末)



東京本社



研究施設 (テクノトープ)



落合 陽一

代表取締役 CEO / 共同創業者

2015年、東京大学学際情報学府博士課程修了。2015年、筑波大学の助教に着任。主な研究領域は、「デジタルネイチャー」と呼ぶ、デジタルとアナログが融合して自然物と人工物の境界が曖昧になった環境における人間とコンピュータの相互作用。World Technology Network から2015 World Technology Award (IT Hardware)、MIT Technology Review から2020 Innovators Under 35 Japan、Project Management Institute から Future 50 など、数多く受賞。研究室では、科学、工学、文化、アート、パナキュラリティ、コンピュータサイエンスなど、幅広い分野をリード。例えば超音波の技術分野では、音響ホログラフィーの新しい計算方法を提案し、音響浮上技術の開発に注力*。AIに関しては、大規模言語モデル (LLM) が一般の人々にはまだそれほど知られていなかった2020年に早くもそのローカライズ版の研究に着手し、一般の人々が小説を生成するためのアプリケーションを提供**。最近では、LLM を使用した抽象言語オブジェクト (ALO) の研究に積極的に取り組んでいる***。生成 AI、大規模言語モデル、コンピュータ生成ホログラムなど、コンピュータサイエンスに関する多数の学術論文を発表。代表的な出版物は以下の通り：

***(1) Y. Ochiai, N. Kondo, T. Fushimi, "Towards Digital Nature: Bridging the Gap between Turing Machine Objects and Linguistic Objects in LLMs for Universal Interaction of Object-Oriented Descriptions", arXiv:2304.04498 (2023)

* (2) T. Fushimi, K. Yamamoto, and Y. Ochiai, "Target Acoustic Field and Transducer State Optimization using Diff-PAT", AIP Advances 11, 125007 (2021)

** (3) H. Osone, J.-L. Lu, and Y. Ochiai. 2021. BunCho: AI Supported Story Co-Creation via Unsupervised Multitask Learning to Increase Writers' Creativity in Japanese. In CHI Conference on Human Factors in Computing Systems Extended Abstracts (CHI '21 Extended Abstracts), May 8-13, 2021, Yokohama, Japan.



村上 泰一郎

代表取締役社長 COO / 共同創業者

東京大学大学院修士課程修了 (工学)。その後アクセントチュア戦略コンサルティング本部にてR&D戦略／デジタル化戦略／新規事業戦略等を中心に技術のビジネス化を支援。また同社在職中にオープンイノベーション組織 (Open Innovation Initiative)、およびイノベーション拠点 (Digital Hub) の立上げにも参画。経済産業省：大企業と研究開発型ベンチャーの契約に関するガイドライン策定委員会委員、一般社団法人未踏のエグゼクティブアドバイザーも兼任している。



星 貴之

取締役 CRO / 共同創業者

2008年、東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。物理と数学を駆使した波動制御技術の専門家。2008年に世界初となるスキャン可能な空中超音波触覚ディスプレイのプロトタイプを開発し、2013年には世界初となる三次元音響浮遊の実証を行った。2014年に文部科学省 NISTEP より「科学技術への顕著な貢献」を受賞。現在は、産学連携とオープンイノベーションによる波動制御技術の社会実装に取り組んでいる。

波動原理で説明できるもの

音

光

超音波

電波

波動の特徴を表す物理量

$$v \text{ (速さ)} = f \text{ (周波数)} \times \lambda \text{ (波長)}$$

例えば音の速さ (m/s) は $331.5 + 0.6 \times \text{気温}$ で表される。
したがって気温15度の空間においては約 340 (m/s) である。

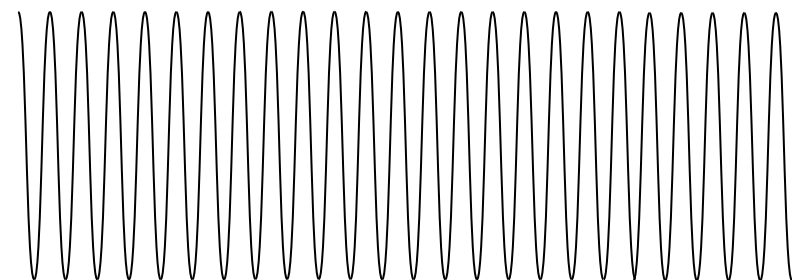
波が1秒間に何回振動するかを周波数といい単位は Hz (ヘルツ) で表される。
例えば人間に聞こえないほど高い周波数の音を超音波と呼ぶ。

波の空間的な長さのことを波長といい単位は m (メートル) である。
速度が一定ならば、周波数を減らすと波長は長くなるという関係が読み取れる。

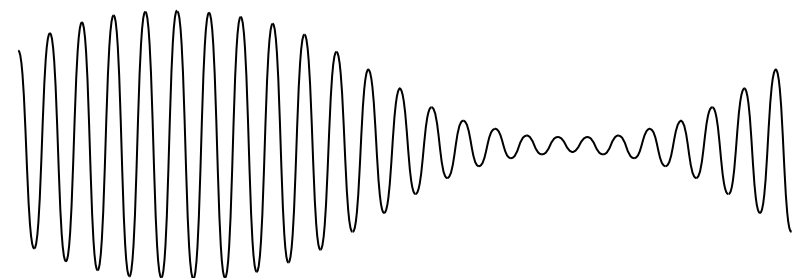
kikippa であれば



1,000Hz の音がテレビから出ている場合



40Hz 振幅変調
(正弦波の場合)

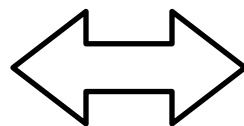


音や光の挙動を抽象的なレイヤーで望む通りに操作し、音や光それぞれ固有な特性を利用するための一連の方法論

抽象／数理

音や光に共通の波動としての性質を数理的に扱い、
 計算機シミュレーションによる最適化や電子回路による制御を行う。

$$\frac{1}{c^2} \frac{\partial^2 u(x, t)}{\partial t^2} = \frac{\partial^2 u(x, t)}{\partial x^2}$$



具体／物理

音や光の物理現象としての違いや周波数／波長の違い、
 媒質や対象物体の特性による違いを把握し巧みに利用する。

波動	知覚可能	知覚不能
光	可視光	紫外線 赤外線 電磁波
音	可聴音	超音波

当社は前年度（2022年5月 – 2023年4月）に4つのプロダクトを発売。





CES 2024 Innovation Awards 受賞



2023年 ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS
クリエイティブイノベーション部門ゴールドと
ICCサミット賞をダブル受賞



2023年 kikippa グッドデザイン賞 受賞



CES 2023 Innovation Awards 受賞



2022年 代表取締役CEO落合が世界経済フォーラムの
ヤング・グローバル・リーダーズ2022に選出



2022年 令和4年度「知財功労賞 経済産業大臣表彰」受賞



2020年 第2回 IP BASE AWARD
スタートアップ部門 グランプリ受賞



大学発ベンチャー表彰2019表彰式
～Award for Academic Startups～
アーリーエッジ賞 受賞



「落合陽一×日本フィルプロジェクト」カンヌライオンズ2019
第72回電通広告賞をはじめ複数受賞

独自の波動制御技術*とコンピュータサイエンスを組み合わせ、当社はパーソナルケア機器やメタマテリアル**含む技術開発をしています。



* 「波動制御技術」とは、波動を放射して物体に影響を与えたり、波動を測定して物体に関する情報を取得・分析したり、波動に干渉して望んだ効果を得たりする当社独自の技術を指す。

** 「メタマテリアル」とは、自然界にはない特性を持つように設計された材料のこと。これらの材料は通常、光や音など対象とする波の波長よりも小さい人工的に設計された構造を持つ。

パーソナルケア &
ダイバーシティ

ワークスペース &
デジタルトランスフォーメーション

SonoRepro™

家庭用超音波スカルプケアデバイス

概要

SonoReproは2022年11月に日本国内で発売されたスカルプケアデバイス。当社の独自技術の一つである超音波による非接触振動圧刺激を利用して開発。シャワーヘッドのような形状をしており、ユーザーは頭皮の気になるところにかざして使用します。

提供価値

SonoReproは毎日の使用を前提としています。予防医療のアンファーと共同で臨床試験を行い、非接触振動圧刺激が成長期の毛髪の割合を増やし、休止期の毛髪の割合を減らすことを実証しました。

先進テクノロジーで毎日のケアを

非接触振動圧刺激を用いた大型デバイスは、2021年から頭皮 / 頭髪専門のDクリニックに導入されています。SonoReproはこの大型デバイスを小型化し、ご家庭での本格的なヘアケアを実現しました。



SonoRepro™

家庭用超音波スカルプケアデバイス

概要

SonoRepro は複数の販売チャネルを持ち、価格は125,000円です。
現在、商品は日本国内でのみ入手可能です。

小売店

ビックカメラ



ヨドバシカメラ



b8ta



Tsutaya Books



EC サイト

自社 EC サイト



Amazon, Rakuten etc.



リース

kikito, Rentio, airCloset Mall



kikippa™

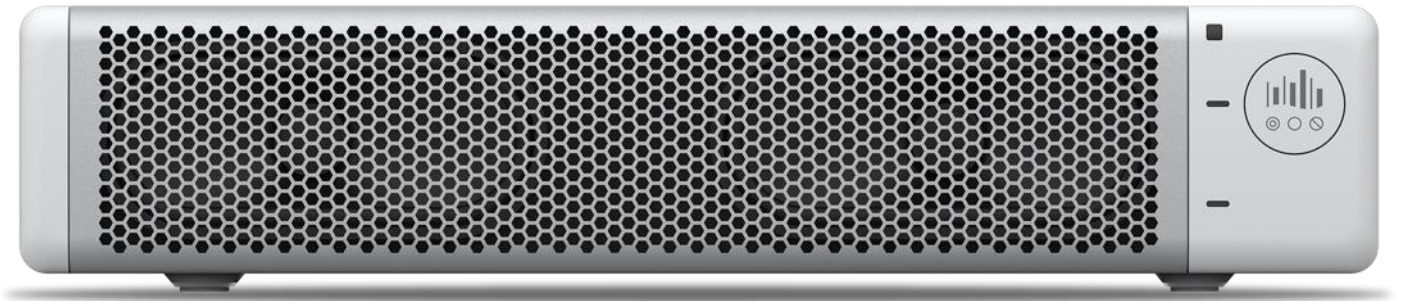
ガンマ波サウンドケア

概要

kikippa は、デスクトップスピーカーとして機能する音響刺激装置で、2023年4月に日本で発売されました。kikippa は私たちの技術を利用してテレビやラジオの放送などの日常的な音を振幅変調します。ユーザーはオーディオケーブルを使って kikippa をテレビセットやラジオ、その他のオーディオデバイスに接続することができます。kikippa は、塩野義製薬株式会社と共同で開発されました。

提供価値

kikippa には専用のウェブサイトとLINE の統合機能があります。ユーザーが自分のデバイスの使用実績を閲覧したり、介護者が被介護者の使用状況を確認したりすることができます。



VUEVO™

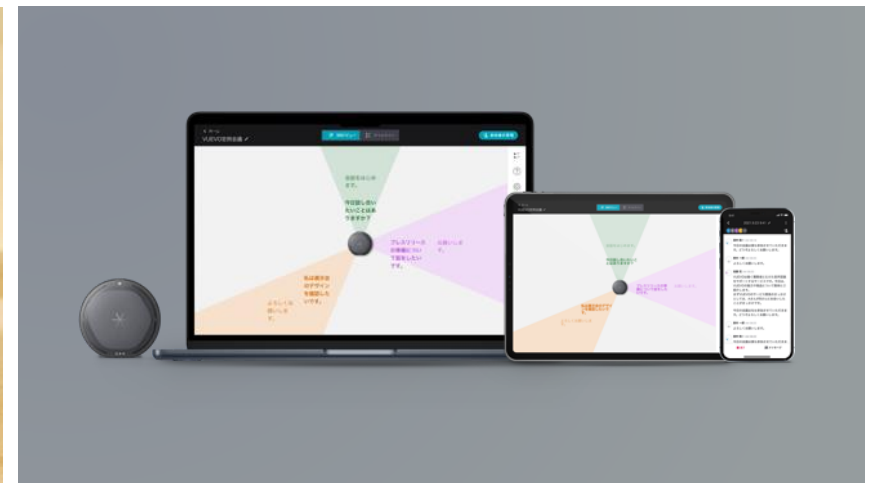
100人以上の聴覚障害者（DHH）へのインタビューから
生まれた革新的な文字起こしサービス

概要

VUEVO は、聴覚障害者向けの支援を提供する製品シリーズです。VUEVO マイクは、マイクが特定した発話者の方向と発話内容をコンピューターやタブレット、スマートフォンの直感的なユーザーインターフェース上で提供します。VUEVO グラスは、眼鏡を着用したユーザーの視野に、実空間の発話者に発話内容を重ね合わせて表示するウェアラブルデバイスです。VUEVO は、住友ファーマ株式会社と共同で開発されました。

提供価値

補聴器とは異なり、VUEVO は音声の文字起こしを表示し、誰が話しているかを示すことができます。これは特にグループでの会話に役立ちます。完全に聴覚を失った人々もVUEVOを使用することが可能です。製品の機能が補完的な性質を持っているため、既存の補聴器と併用することができます。



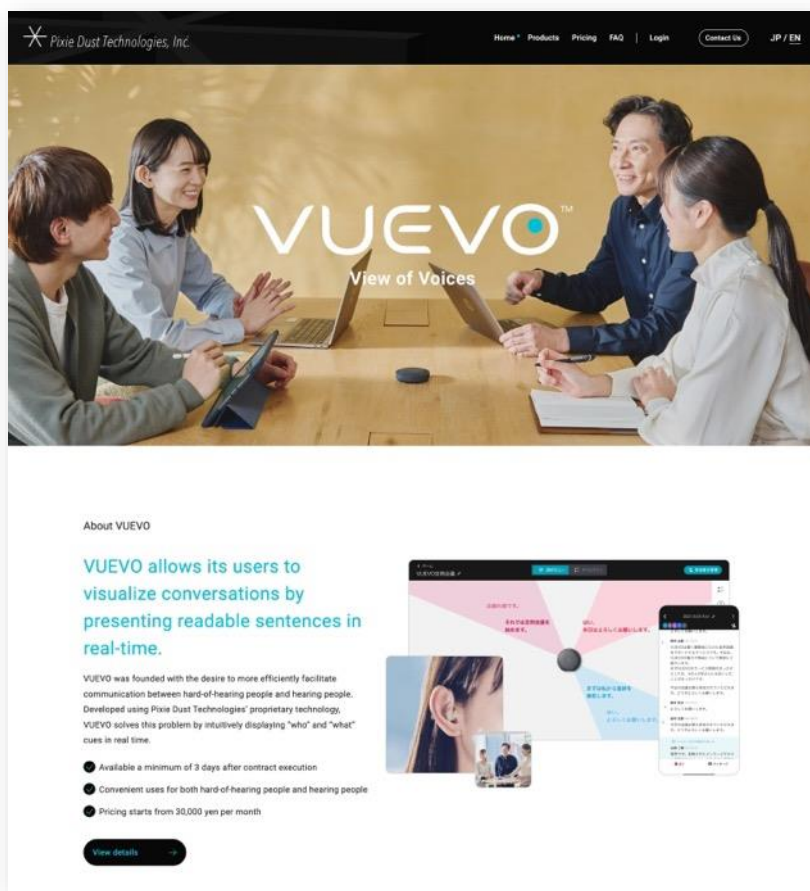
VUEVO™

販売

PxDT がデバイスと月額サービスをクライアントに販売・提供します。

デバイス本体価格は 45,000円、使用料金は月額30,000円です。初期セットアップ費用は 100,000円です。

VUEVO 販売ウェブサイト



VUEVO リーフレット



VUEVO バナー（展示会向け）



iwaseMI™

材質から構造へのパラダイムシフト

概要

iwaseMI は、私たちの独自技術により設計した音響メタマテリアルを用いた吸音材の製品シリーズです。コンピュータの性能向上と人工知能の進歩により、高速に大量のシミュレーションをすることができるようになりました。これらの技術リソースを活用して、新たな音響メタマテリアルを作り出し、これにより複数パターンでの iwaseMI がリリースされました。

提供価値

既存の多くの吸音材は素材の性質によって音を吸収しますが、iwaseMI は構造によって音を吸収します。この性質のおかげで、私たちは設計自由度が高く軽量の吸音材、iwaseMI を開発することができました。両面テープやマグネットにより室内の壁に簡単に設置することができます。居住者が移動する場合にも、移転先に移設して引き続き使用することができます。



吸音メタマテリアル

iwaseMI™ | HX-α

2022年7月発売



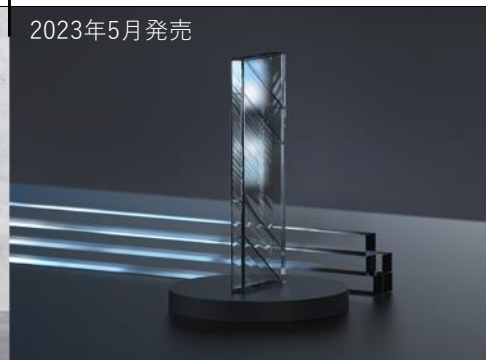
iwaseMI™ | RC-α

2022年12月発売



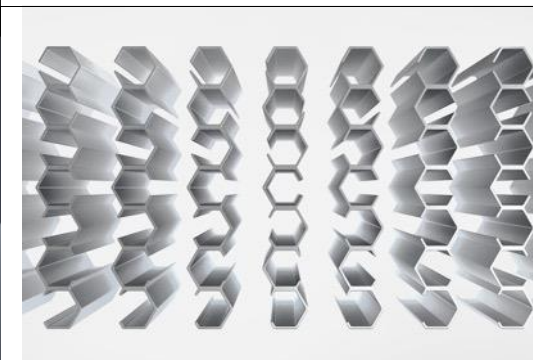
iwaseMI™ | SQ-α

2023年5月発売



遮音メタマテリアル

新技術により市場を開拓



iwaseMI™

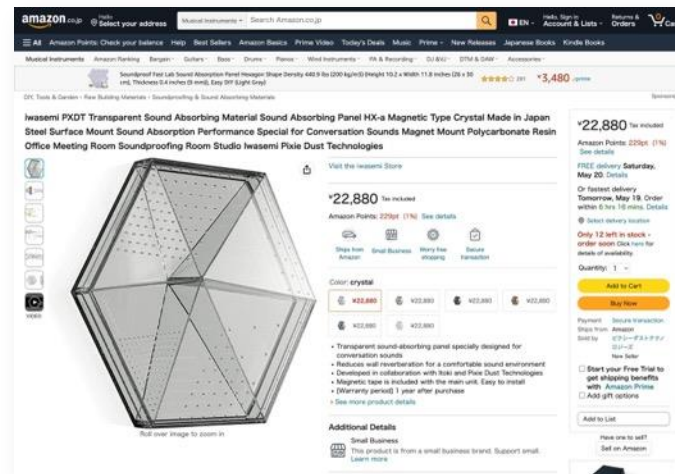
販売

iwasemi は複数の販売チャンネルを持っています。現在、日本で入手可能です。また2023年3月には建築およびインテリアデザイン事務所などのアメリカの主要な専門家向けに、iwasemi の一部をソフトローンチしました。「iwasemi™ RC-α」は2024年1月9日～12日に米国ラスベガスにて開催されたCES 2024のEureka Parkジャパンパビリオンにて「Home Appliances」のカテゴリーで、特に評価の高い商品に贈られる「CES 2024 Innovation Awards」を受賞しました。

自社直販



Amazon Japan



オルガテック東京2023の様子



イトーキによる販売



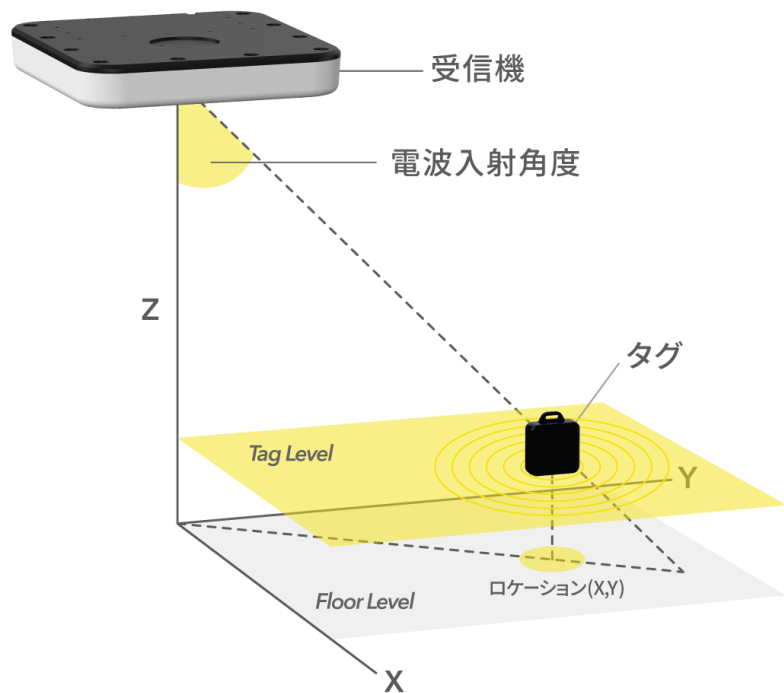
CES 2024
Innovation Awards



誤差1m以下の位置情報が
世界を変える。

概要

hackke は屋内の人や物の位置情報を高精度かつリーズナブルな価格で検出できる技術です。従来の低精度Bluetoothによる測位システムと比較して、精度がおおよそ10倍向上し、平均で1m以内の精度で測位が可能です。



提供価値

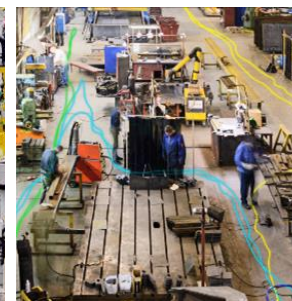
1m精度だからこそ、人や物の動きを見える化することができます。加えて、そのデータを分析することで有益な示唆を得ることが可能です。例えば、オフィスではフリーアドレスの在席管理と利用状況の可視化、製造工場や物流倉庫、建築現場等ではアセットマネジメントや工数集計、生産・作業効率改善、資材・機材の適切な位置の検討、セキュリティ対策にも活用できます。



所在確認



工数集計



動線分析



利用状況分析

KOTOWARI™

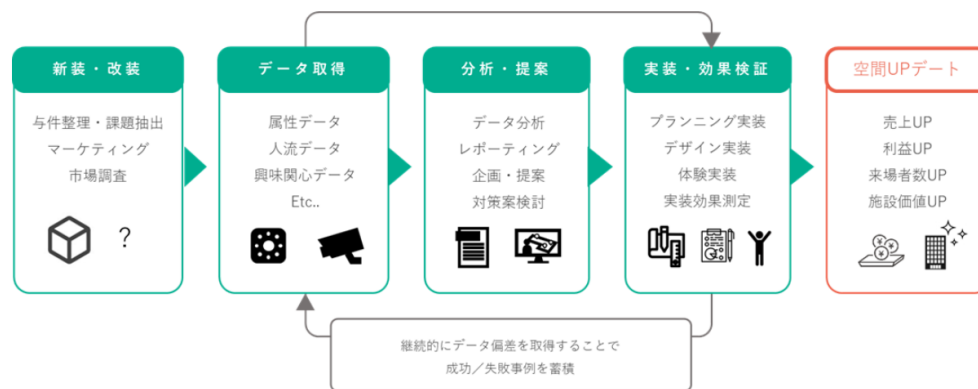
空間データソリューション

概要

KOTOWARI は、映像データや点群データなどの空間データを取得・保存・活用することで、空間内で発生する事象をデジタルデータとして取り扱い、統合的に解析するアプリケーションを通じて空間づくりにまつわる様々な課題を解決します。

販売

空間に関するデータ分析とデザインを掛け合わせ、空間価値を最大化するサービス「FAC+ (ファクタス)」の提供を開始。これまで感性やセンスによって行われてきた空間づくりのプランニングやデザイン・設計に定量的なデータを掛け合わせ、事業者の課題解決やエンドユーザーのさらなる体験価値向上を目指したサービスです。

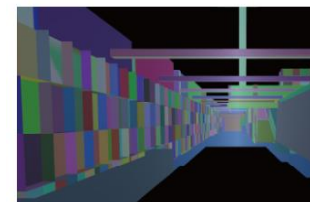


提供価値

空間づくりは「企画・デザイン」に始まり、「施工」、「利用・運用」、「保守」などの各フェーズで多様なプレイヤーが関わっています。カメラで捉えた映像を解析することで、データに基づく空間設計を実現し、空間の価値を最大化することが可能となります。また、建設現場内の映像を解析することで、現場に足を運ばずとも施工の進捗が確認でき、人手不足に悩む業界にデジタルの恩恵をもたらします。

R&D

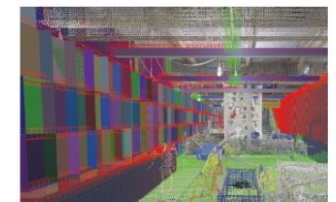
建設現場における品質向上、確認作業の生産性向上を目指した研究開発を進めています。特に、BIMなどの3次元モデルと現場の点群データを重ね合わせることで、出来形を遠隔から確認するソリューションの開発などを進めています。



BIM データ



点群データ



BIM と点群から生成した出来形ビュー (緑エリア：施工完了、赤エリア：未完了)

本プレゼンテーションおよび本プレゼンテーションに関連して行われた口頭による発言は、情報提供のみを目的としたものであり、日本法に基づいて設立されたピクシーダストテクノロジーズ株式会社（以下「当社」）のいかなる株式、債券またはその他の証券の売買の申込み、購入の勧誘または購入を推奨するものではありません。ここに含まれる情報はすべてを網羅するものではありません。ここに記載されているデータは、信頼できると考えられる様々な社内外の情報源から得られたものですが、その正確性や完全性を保証するものではありません。ここに含まれる過去の実績に関するデータは、将来の実績を示唆するものではありません。適用される法律で義務付けられている場合を除き、当社は本投資家向け説明会の情報を更新する義務を負いません。本プレゼンテーションは、投資、法律、税務、財務、会計、その他の助言とみなされるものではありません。本プレゼンテーションの伝達は法律により制限されており、そのような配布や使用が現地の法律や規制に反するような法域での配布や使用を意図したものではありません。当社は、本プレゼンテーションに記載された事項に関して、（明示または黙示を問わず）いかなる表明または保証も行っておりません。

将来の見通しに関する記述

本プレゼンテーションに含まれる一部の記述は過去の事実に関する記載ではなく、1995年米国私募証券訴訟改革法のセーフハーバー規定における将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、当社の将来における業績、財務状況、事業戦略および計画、市場機会、競争上の地位、業界環境、潜在的な成長機会に関する予測および推定が含まれる場合があります。場合によっては、「可能性がある」、「予定である」、「はずである」、「設計する」、「目標」、「目指す」、「期待する」、「可能性がある」、「意図する」、「計画する」、「予測する」、「推定する」、「信じる」、「継続する」、「予測する」、「プロジェクトする」、「可能性がある」、「目標する」などの用語や、将来の出来事や結果の不確実性を伝えるその他の言葉によって、将来見通しに関する記述を特定することができます。また、戦略、計画、または意図に関する議論によっても、将来の見通しに関する記述を特定することができます。これらの将来見通しに関する記述には、将来の収益、負債、資本支出、キャッシュフローの見積もり、その他の財務および業績指標の予測、市場規模や機会の予測に関する記述が含まれますが、これらに限定されるものではありません。これらの記述は、さまざまな仮定や当社およびその経営陣の現在の予想に基づいており、実際の業績を予測するものではありません。当社の経営陣はこれらの仮定や予想が合理的であると考えていますが、これらの仮定や予想は本質的に重大な事業、経済、競争、規制、その他のリスク、偶発事象、不確実性、およびその他のリスクに左右されるものであり、そのほとんどは予測することが困難であり、その多くは当社が制御できないものです。リスクが現実化した場合、または当社の仮定が誤りであることが判明した場合、実際の結果は、これらの将来見通しに関する記述に暗示された結果とは大きく異なる可能性があります。当社の事業および業界に内在するリスクと不確実性をよりよく理解するため、当社がSECに提出した、または今後提出するその他の文書をよくお読みください。これらの文書は、SECのウェブサイト www.sec.gov、EDGARにアクセスして無料で入手できます。これらの将来見通しに関する記述は、本プレゼンテーションの日付時点のものであり、法律で義務付けられている場合を除き、当社の予想の変更、またはかかる記述の根拠となる事象、条件、または状況の変更を反映するために、将来見通しに関する記述の更新または修正を公に発表する義務または約束を負うものではありません。ピクシーダストテクノロジーズ株式会社またはその代理人に起因するすべての将来見通しに関する記述は、この注意文言によっていかなる責任を負うものでもありません。

市場および業界データ

本プレゼンテーションには、業界市場データおよび特定の業界予測への言及が含まれています。業界市場データおよび業界予測は、一般に入手可能な情報および業界出版物から入手したものです。業界出版物には一般的に、そこに含まれる情報は信頼できるとされる情報源から入手したものであるが、その情報の正確性および完全性は保証されないと記載されています。当社は業界情報が正確であると信じていますが、当社が独自に検証したものではありません。また、一部のデータは、上記の独立した情報源と同様に、社内調査やデータのレビューから得られた当社の誠実な推定に基づいています。当社および当業界の将来の業績に関する仮定および見積もりは、さまざまな要因により、必然的に高い不確実性とリスクを伴います。これらおよびその他の要因により、将来の業績が当社の仮定および見積もりと大きく異なる可能性があります。